

原子力空母 母港化撤回を！

核密約を認めたのなら、母港化は白紙撤回のはず！

今年3月、いわゆる「密約」の調査報告が政府によりなされました。「核密約」の存在も明らかにされ、米艦船が核兵器を積んだまま、在日米軍基地に入港していたことが明らかになりました。横須賀が米空母の母港となったのは、1973年。空母ミッドウェーの母港化の時です。このとき「密約」により、ミッドウェーには核が搭載されていないことにされていました。日本政府は（表向き）非核三原則を堅持する立場であったからです。つまり、「密約」抜きには横須賀の米空母母港化はなかったということになります。

「密約」それ自体が許せませんが、「密約」の結果起こったことすべてを許すべきではありません。政府は、「密約」を認めた以上、それによりなされた米空母の母港化そのものも撤回すべきです。「密約」の結果起きたことに責任を持たない政府の姿勢に批判の声を上げていきましょう！

断固抗議！

横須賀での原子炉メンテナンス作業は約束違反！

原子力空母ジョージ・ワシントンの母港化後、横須賀基地内で、昨年と今年、2回にわたって原子炉のメンテナンス作業がおこなわれています。作業によって発生した放射性廃棄物が輸送船に積み替えられて米国本国に搬出するという作業も行われています。

放射能漏れや、作業者の被曝のリスクを伴うこのような危険な作業は、行わないというのが日米間の約束（1964年の覚書）であるはずなのに、明らかな約束違反です。原子力空母の母港化の実態は、このような約束違反も含まれており、周辺住民や海の安全を脅かしています。抗議の声を上げて、日米政府に今後作業を取りやめるよう迫っていきましょう！

日米韓の危険な戦争挑発を止めさせよう！

この間、米軍は中国による再三の反対・警告・抗議にも関わらず、空母ジョージ・ワシントン中国近海に出動させて、中国への軍事的威嚇・挑発を繰り返しています。

7月には、韓国哨戒艦沈没事件への対抗措置を口実に、日本海で行われた大規模な米韓合同軍事演習に空母ジョージ・ワシントンが参加。この米韓合同演習は年末まで毎月のように繰り返されるとされています。また、海上自衛官がこの演習に参加していることも見過ごせません。

8月には、領有権問題のある、南シナ海の西沙諸島沖にジョージ・ワシントン送り込んで、対中での軍事的プレゼンス・領有権問題での介入の意図を誇示しました。

大変危険な挑発行為です。

9月、この脈絡の中で、東シナ海尖閣諸島での事件が発生しています。逮捕された中国漁船船長は釈放されたものの、クリントン米国务長官や前原外務大臣などによる、尖閣諸島について「安保条約は明らかに適用される」との、対中戦争挑発発言へとエスカレートさせられています。

わたしたちは、空母の母港化撤回を求めると共に、東アジアの平和を脅かすこのような戦争挑発、空母ジョージ・ワシントンの軍事行動に反対します。強く抗議の声を上げていきましょう！（2010. 9. 25）



写真：米海軍のホームページより

署名にご協力をお願いします！

普天間返還！新基地断念！ 「日米共同声明」撤回！

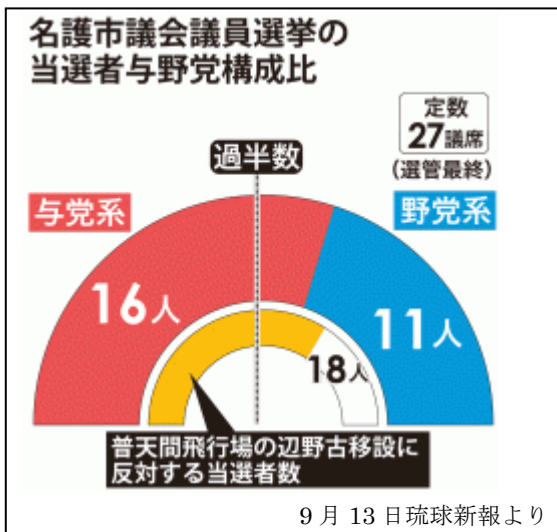
名護市議選は、新基地建設反対派が圧勝！

5月28日の日米共同声明で再確認された辺野古新基地計画を抱える沖縄県名護市の市議会選挙が、9月12日投開票され、新基地建設に反対する稲嶺市長派が圧倒的多数で勝利しました。沖縄の運動と世論は、また大きく前進しています。

反市長派を公然と支援し（実質、新基地建設容認の）仲井真沖縄県知事も、政府に「県外（移設）を」求める方針と報道されました。新基地建設（「県内移設」）容認では、11月の知事選が戦えなくなるという状況に追い込まれてのことです。

神奈川の基地問題で闘うわたしたちも、沖縄の力強い反基地運動に敬意を表し、強く連帯をして、共に闘って行きたいと考えます。

本日は、普天間基地の無条件返還と辺野古・徳之島への移設断念を求める署名に、ご協力をお願いしています！是非一筆、宜しくお願いします。



<速報>

9/23 沖縄フォーラム IN 東京 普天間は問いかける 沖縄からの報告を受け、普天間返還・新基地阻止へ向け、 会場を埋めた400名が新たな決意

9月23日に明治大学リバティホールで開催された沖縄フォーラム IN 東京は、名護市議選での稲嶺市長支持派の勝利の直後であり、また沖縄県知事選を控えたタイミングでもあり、参加者は沖縄からの発言を受け、沖縄反基地闘争の継続を確信する場となった。

さらに、在沖米海兵隊が、米軍や政府の言う“抑止力”ではなく、撤退も可能であり、そのためには日米安保を問題としなければならないことを確認した。

